

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し社会に貢献する生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善方針	学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	○個に応じた指導と学習習慣の定着 ○基礎学力の定着と深い学びの充実	○家庭での学習習慣の定着	○課題の提出	100%	93%	93%	B	・3学年の「全国学力」では、国語71%(県74%、全国72.8%)、数学56%(県60%、全国59.8%)、英語55%(県56%、全国56.0%)、英語「話すこと」33%(全国30.8%)であった。ほとんどの教科で、県平均や全国平均を下回った。 ・校内アンケートの「毎日の家庭学習で復習などに取り組んでいます」の問いに対する肯定的回答が、9月…61%、5月…64.9%であった。	・週4日のドリルタイムのねらいを明確にし、意欲的に取り組ませ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。 ・「標準学力調査」に対応した問題を授業で取り組ませる。 ・毎日、ノートに1ページの復習を書くことや3年生の新研究を使っている3年間の復習、英語科でのノート1ページの復習等の取組を進める。	○			・3年生の学力が、全国平均、県平均を下回っている。ドリル学習の充実や提出物100%を目標に、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。
			○わかる・できる授業の創造に向けた授業改善	○生徒の授業満足度	90%以上	88%	98%	B	・授業はよくわかる(9月…88%、5月…90.1%)、授業規律を守り意欲的に取り組んでいる(94.4、94.5)、提出物を確実に出しています(93.1%、93.9%)と、数値は概ね高いが、前回(5月)を下回っているところもある。 ・授業研究については、年間計画通り進んでいる。11月には12人と3学期に1人を予定しており、今後も計画通り進める予定である。	・研究授業での取組や、他校の研究会に参加して学んだことを、主体的・対話的で深い学びにつなげる。 ・本校の課題である「思考力・判断力・表現力」の育成について、各教科の授業において、どのような場の設定をするか等の取組の具体を協議し、全体で共有する。 ・各教科の定期試験において、記述式の問題について、生徒の回答状況を分析して、授業改善にいかす。	○			
			○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究の推進	○研究授業を1人年1回以上	1人1回以上	5人	28%	D						
豊かな心・健やかな体	郷土に愛される生徒の育成	○積極的な生徒指導の推進 ○道徳教育の充実 ○異学年の協働活動の推進	○生活四訓の徹底とデイリーの取組や「いじめアンケート」の実施	○生活四訓を守る	100%	89%	89%	B	・生活四訓のうち、整理整頓や身なりに関しては90%を超えている。しかし、挨拶に関しては70%台で課題と考える。 ・9月末現在で、「いじめ」が2件。暴力行為は0件である。 ・昨年度から改善されている生徒も数名いるが、今年度新たな不登校が3名であった。	・全体的に高い数字を残している要因の1つが、生徒会活動の頑張りである。生徒主体の活動となるよう引き続き支援をしていく。挨拶については朝会等、全体の場での指導を継続して行う。 ・定期的に未然防止に向けた取組を学年・全校で行っていく。 ・取組がうまくいっているケースもある。継続して個々のケースに応じた対応を行う。また、良い取組について全体で共有をしていく。	○			・生徒が集中して授業に取り組んでおり、自分の意見を述べ、分からない問題を先生や生徒間で教え合う姿はよい。 ・不登校や個別での関わりが必要な生徒が多いのは課題である。別室を設け、学習方法を工夫している点は評価できる。
			○協働的な学び合いの場を仕組み議論する道徳授業の推進	○道徳の授業満足度	80%以上	82%	100%	A	・教科化に伴い、評価についての研修を行った。そこでは、指導と評価の一体化など、評価につながる指導の在り方についても検討した。その手法の一つとして、全職員によるローテーション授業の実施を計画し、これまでに実行した学年もある。またそのローテーション授業では、TTでの授業形態により、より効果的な授業展開を検討・実施できた。	・ローテーション授業や授業前の学年での検討会など、組織的な授業改善を進める。 ・ローテーション授業未実施の学年については、今後計画的に実施する。またその際には、TTによる授業を設定し、複数の目で生徒の思考の深まりを見取り、全体へ還元することで全生徒の学びにつなげる。	○			
			○生徒会活動や部活動の活性化	○生徒会活動等の自己有用感	80%以上	90%	100%	A	・生徒会活動等の自己有用感に関しては90%であり、生徒は肯定的にとらえている。 ・部活動満足度に関しても90%であり、生徒の部活動に対する意欲は高い。	・生徒会活動への肯定的評価の要因は学校行事への積極的な貢献だけでなく、生徒会行事の企画・事前準備などに生徒が主体的に参加し、その取り組みが認められていることが大きい。今後の行事についても継続して参画していくよう指導を継続して行う。 ・部活動についても各都顧問が指導を充実させ生徒に満足感を与えていることが結果として表れている。継続し、指導を行う。	○			
信頼される学校	郷土に貢献できる生徒の育成	○防災教育の推進 ○ボランティア活動の推進 ○業務改善の推進	○地域と連携した防災学習の推進	○自己有用感	80%以上	76%	95%	B	・総合的な学習の時間で、地域と連携した防災学習を進め、実体験として防災キャンプに参加し自己有用感を高めた。	・地域の部活清掃活動や学年でのクリーン活動などへの参加を呼び掛ける。	○			・防災学習やボランティア活動を通して、地域の方とコミュニケーションを取ることで、生徒の自主性、思いやりの心を育むことは大切である。地域とのつながりが増えていることは、よい傾向である。 ・先生方の仕事量が軽減され、心にゆとりを持って生徒にかかわれるようになってほしい。
			○地域行事やボランティア活動への参加	○ボランティア活動参加満足度	80%以上	91%	100%	A	・ボランティア活動参加満足度に関して91%であり、地域貢献に対する意識は高い。					
			○月に2日の定時退校日の設定	○超過勤務月60時間以内	80%以上	49%	61%	C	・4月～9月にかけて、月の超過勤務が60時間を下回っている教職員の割合は、約半分である。どの教員も熱心に取り組んでいるが、実態として在校時間が長い。 ・「少しでも早く退校できるよう業務改善に努めている」教職員の割合が60%である。意識を高めていく必要がある。	・教育活動を進める上で、取り組むべき課題を解決するためには時間を要する面は確かにあるものの、業務について見直しを図り、教職員の働き方に対する意識を変えていく必要がある。 ・業務改善について、二中としてどのようにしていきべきか協議する場を設け、今後につなげる。	○			

【j:自己評価 評価】
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100
C: 60% (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。